

# うたごえ新聞

1/3・10

(2000年)

NO. 1738

THE SINGING VOICE OF JAPAN (UTAGOE)

日本のうたごえ全国協議会機関紙  
うたごえ新聞社  
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-16-36  
☎03(3209)0638 FAX03(3200)0105  
E-Mail = utashin@pop06.odn.ne.jp  
振替口座 00120-6-5631 毎週月曜日発行



## 生きる喜びのうたごえよ ひろがれ!

# 賀正

あけまして おめでとうございます  
静岡と言えば「富士山」「グランシップ」(陸の船)、2000年日本のうたごえ祭典の会場(写真④)、そして和太鼓。ほんのり雪の積った富士を背に、ハンディキャップ太鼓の会(村上潤子代表より、読者のみなさんに新年の「あいさつ」。「こんなに楽しくたげる太鼓はない。祭典でも」とみなさんをお待ちしています(同団紹介続報。11月はみかんも熱いお茶もうまいよ)。  
写真・文 高木 徹(静岡合唱団なかま、祭典組織事務局長)

## 新年号の記事

新年メッセージ 金甫城(韓国民族音楽人)・浅井峰子(協会事務総長) 3面

2000年にタツジ 各地からの声・初笑い 4面

新春対談 “激変の時代、今、歌が生まれる”

全労連小林洋二議長・6、7面

日本のうたごえ高橋正志幹事長



▲小林洋二さん

新企画 “からだと心が笑っちゃう” つながりあそびの輪 5面



▲伊達伸子さん

うたごえの歴史 ミュージック・トゥデイ 10、11面  
(奈良恒子)9面 日下部吉彦、和田静香

アジア作曲家連盟会長 ソプラノ 伊達伸子さん(2000年しずおか祭典ゲスト) 「空を見えますか」(池辺晋一郎)12面  
松下功さん11面

うたごえ  
生きる喜びのうたごえ  
新しい世紀をむかへ

2000年  
日本のうたごえ祭典 in しずおか

■大音楽会/11月26日(日)・グランシップ「大ホール・海」  
■合唱発表会・創作発表会/11月24日(金)・25(土)・静岡市民文化会館・中ホール

主催 ●2000年日本のうたごえ祭典 in しずおか実行委員会 〒420-0871 静岡市東区一丁目10-37 TEL.054-272-0606 054-253-2563

▲「2000年日本のうたごえ祭典 in しずおか」チラシ第一号。作者は切絵作家の佐藤節郎さん。「県の鳥『サンコウ鳥』と県の花『ツツジ』それにマグロは派手にカジキマグロにしました。『ピキニ』もびっくりノ両方とも歌っているんだよ」と作者は言っていました。(出木充・祭典事務局長)

新しい年があけた。新しい、前とは違う出発ができるような気分。それはリフレッシュにつながる。で大事にしたい。本紙も今年は！と思っている新企画がある。その一つ、二本松はじめるさんの「からだも心も笑っちゃう」つながりあそび「うた」がそれ。いのちの大切さ、人と人が出会うすばらしさにリフレッシュ。きつと。

☆ ☆ ☆  
春に、テレビのアンコール番組「ようこそ先輩」を見た。各界で活躍している人が母校で課外授業をする番組だが、私が見たのは美術解剖学の布施英利氏だった。絵にはその内部を見る描き手の目が必要と伝える(教えるとは受け取らせないのがこの人のすばらしさ)。一日目、子どもたちに魚の絵を描かせ、その後、みんなで釣りに行く。二日目、釣った魚を子どもたちと解剖し、体のしくみ、そしていのちの尊さを伝えた。この時、こぼれは本当に少しいい。が、時と場合を得たことは光る。

☆ ☆ ☆  
子どもたちはみな、生きるしくみに感嘆し、解剖後は真新しいガーゼを覆い、花を添えた。その後、描いた魚の絵、どの子の魚も生きていた。体得とはこういうこと。いのちを、存在を知るとはこういうこと。今年もこんな絵で心を満たしたい。今年本紙は創刊45周年。8月26・27日、長野・松本で「うたごえまつり」開催。ごぞつて参加を。(純)

